

MACAU OPEN 2015 報告書

(敬称略)

- 1 大会名 MACAU OPEN 2015  
2 大会期間 2015 年 11 月 24 日～29 日  
3 大会会場 Tap Seac Multisport Pavillion  
4 Referees Federico Valdez (ペルー)  
Dep Referee Nikos Vladimirov(キプロス)

5 主な日程

- 11 月 22 日 (日) 移動 (旭川→東京→香港)  
11 月 23 日 (月) 移動 (香港→マカオ) Technical Official Meeting  
11 月 24 日 (火) 予選、一回戦 ベスト 64 (線審 6 人)  
11 月 25 日 (水) ベスト 32  
11 月 26 日 (木) ベスト 16  
11 月 27 日 (金) ベスト 8 (線審 10 人)  
11 月 28 日 (土) 準決勝 (午後と夕方の 2 セッション)  
11 月 29 日 (日) 決勝  
11 月 30 日 (月) 移動 (マカオ→香港→東京→旭川)

- 6 国際審判員 タイ 1 名、台湾 2 名、ニューカレドニア 1 名、アメリカ 1 名、韓国 1 名  
ホンコン 1 名、中国 1 名、韓国 1 名、マレーシア 1 名、マカオ 4 名、日本 1 名

7 Umpire Briefing にて確認事項

- 審判の服装  
支給されたポロシャツ 2 枚、ウォーマー上を着用。  
黒パンツ、靴下、シューズは各自用意
- 行進、退場の仕方
- 決勝トーナメント以降の審判はすべて指名制
- 両選手を片側に寄せてトスをすること。
- 毎日ゲームの 40 分前に Briefing
- ユニフォームチェック  
→最近アンダーソックス (タイツ) を履いている選手が多いのでロゴの数について言及。ロゴは普通の靴下とアンダーソックスのロゴも含め片足で 2 つまで許容。  
→試合中、ユニフォームを着替える際は全く同じ色、デザインでなくてはならない。そのためユニフォームチェックの段階で選手に確認した。  
→準々決勝からダブルスのユニフォームは同色かつ似たデザインであること、対戦相手と同系色は着替えさせること。  
→グランプリのため、名前だけが必須、その他はオプション

#### ・時間管理

- 練習は2分以内を強調され、1分20秒程度で選手にゲームの準備をするように伝えた。
- 汗飛ばしは注意すること。
- 選手の要望を受けてからモップを入れるのでは遅い。選手が転倒したら主審の判断でジェスチャーを交え（スコアをコールしながらでも）すぐに入れること。
- 片方の選手が汗拭きの要望をしたら、ジェスチャーでコートサイドに対戦相手も導く。
- シャトル交換の際、片方が拒んだ場合は、流れを大切にすること。

#### ・サービスジャッジの任務の確認

- 選手との握手は不要。
- ネットは毎回計測する。
- テレビコートではトスの際、映像が取れるように対面のポールを迂回して席に着くなど、注意する。
- サービスジャッジがなぜフォルトなのかを言ってあげる（レフェリーにより異なる）。

#### ○ 注意すべき点

- ・トスの際、しっかりと選手を自分の前に呼んでから握手すること。体をねじって握手しない。
- ・トスの際、コインの色を選手に決めさせると時間がかかるのでしない。
- ・TVコートでは見た目を重視し、サーバーなどの情報は、メモを取らずに、頭で覚えてから審判台に上がる。（普段から実践することで慣れる。）
- ・試合がゆっくりの時は両選手を呼んで、注意する。
- ・遅延によるイエローカードを出した後も、口頭での注意は継続しつつ、レッドのタイミングを伺う。（韓国オープン報告書内 LADDER APPROACH 参照）
- ・ラケットを交換した際、主審が試打を促す必要はない。
- ・モッパーがしっかり席に着いたのを確認してからプレイ。

#### ○ 研修のまとめ・感想

本大会は、日本バドミントン協会からの派遣ではないため、自身で旅程を組む点で大変苦労しました。一日で移動が出来ずに香港に一泊することや、帰りのマカオ島からのフェリーと飛行機の連結など、初めてのことばかりで戸惑いましたが、現地スタッフの協力もあり無事終えることができました。2か月前に韓国オープンに参加していたこともあり、審判業務は比較的落ち着いてできたと感じていますが、依然として審判の難しさ、自身の未熟さを感じております。今大会で、審判人生で初めてイエローカード、レッドカードを出せたことは、大変貴重な経験となりました。

今回の派遣に際し、河崎理事長、江刺家委員長をはじめとして、この機会を与えて下さった北海道バドミントン協会関係各位に深く感謝いたしますと共に、これからも努力を続けていく覚悟であります。どうぞこれからもご指導の程よろしくお願いいたします。